

JR東労組青年連絡協議会 第1回拡大代表幹事会

8月24日、目黒さつきビルにおいて「JR東労組青年連絡協議会第1回拡大代表幹事会」を開催しました。JR東労組青年部は6月に開催された「JR東労組第43回定期大会」において、新たに「JR東労組青年連絡協議会」へと移行しました。

また、八王子地本管内で発生したパワハラ事象をめぐる、青年連絡協議会としてもパワハラや事実を捻じ曲げる会社姿勢を断固許さず、共にたたかう決意を込め、八王子の仲間たちに檄布を渡しました。

エスカレートする傲慢な経営姿勢や、組織の現実など厳しい状況ですが、このような時だからこそ、仲間とのつながりを大切に、青年らしく「よく遊び、よく学び、よくたたかう」ことを意識してJR東労組青年連絡協議会一丸となつてこの難局を乗り越えていきます！

拡大代表幹事会では16名から発言がありました。24春闘総対話・メッセージ行動において全体の93・6%の仲間との対話をつくり出したことや、沖縄平和研修・ヒロシマ平和研修に参加し、現地に立つことで価値観が変わり、労働組合が平和運動を取り組む意義が確定できたことなどが出され、一年間の運動の到達点を全体で確認しました。協議会への移行についても多くの仲間から「悔しい」などの発言が出されましたが、現実を受け止め、この悔しさをバネに青年部再建をめざし、各地において奮闘することを一致しました。

新役員体制 (敬称略)		
議長	宮下 洋介	大宮 盛岡
副議長	七ツ田 卓	盛岡 盛岡
事務長	内田 涼	盛岡 盛岡
幹事	小松 拓斗	秋田 秋田
幹事	三浦 圭斗	仙台 仙台
幹事	鈴木 敬太	千葉 千葉
幹事	庄司 健人	横浜 横浜
幹事	合田 智之	大宮 大宮
幹事	本田 隼	越前 越前
幹事	高沢 啓太	越前 越前



韓国希望鉄道財団との 国際交流を実施！

9月5日、JR東労組本部は東京地本会議室において、韓国・希望鉄道財団「公共鉄道青年学校」との国際交流を昨年引き続き行いました。

「公共鉄道青年学校」とは2020年から始まった労働組合の青年活動であり、多くのカリキュラムで構成されています。また、2022年には鉄道労使が出資して、希望鉄道財団が主幹する教育活動も行っています。

意見交換では、①公共鉄道青年学校と希望鉄道財団の紹介や取り組み、②韓国希望鉄道財団の報告、③JR東労組の課題や労働者の課題について相互に説明を行いました。

また、駅、乗務員、メンテナンスなど様々な職場で働く中で感じていることや、鉄道に関する悩みなども意見交換しました。国や労働運動は違えど、労働組合は労働者のためにあり、たたかいをつくり出すことは共通の課題であることを学びました。今後も労働者同士の連帯を大切に、共にたたかいます。



絵画部 鑑賞会を開催！

9月10日、JR東労組絵画部はSOMPO美術館で、「ルートレック展」とアジアで唯一見られるゴッホの「ひまわり」を鑑賞しました。絵画部として7年ぶりの活動には9名の仲間が集まり、久々の再会と絵を楽しむことができました。また、参加者全員で絵画部再建をめざすことを確認しました。

油絵、水彩画、ペン画、版画、デジタル、切り絵等ジャンルは問いません。絵が描けなくても絵画鑑賞に興味がある方の参加も大歓迎です。美術は、観察力、想像力、分析力、表現力、創造力、行動力等が高



サークル大会・例会のお知らせ

詳細はサークルNEWSをご参照ください！

- 【ネイチャークラブ】 第28回例会・総会
10/6～7 足尾の森 (栃木県)
- 【釣り部】 第33回釣り大会
10/30～31 ①平塚港・庄三郎丸
②フィッシングフィールド中津川(神奈川県)
- 【ソフトボール部】 第26回ソフトボール大会
11/7～8 十六沼公園 (福島県)
- 【写真部】 第29回撮影会
11/11～12 ひたちなか海浜鉄道
ひたちなか海浜公園 (茨城県)
- 【ボウリング部】 第15回ボウリング大会・総会
11/27 仙台プレイボウリング (宮城県)



今年度は「10年に一度」と言われる猛暑や、台風・線状降水帯

によるゲリラ豪雨が猛威を振っている▼10年前の2014年は、8月には集中豪雨によって広島市の住宅街で大規模な土砂災害が起き、9月には長野・岐阜の県境にある御嶽山が噴火し、多くの死傷者が出た。自然災害が多発した今年とラップする▼当時も今も自衛隊による災害派遣は行われ、救援活動によって救われた命があるのは事実だ▼一方で、2014年当時の安倍内閣は憲法解釈を変更し、集団的自衛権行使の限定的な容認を臨時閣議で決定した。海外での武力行使はしないとしてきた戦後日本の安全保障政策を大きく変えた「安保法制」の改悪である▼日本政府は、安保法制の改悪を皮切りに、災害における自衛隊の必要性を利用しながら、敵基地攻撃能力の保有や防衛費の増額など、戦争のできる国へへととひた走っている。ヒロシマの平和記念式典にて「願うだけでは、平和はおとずれません。色鮮やかな日常を守り、平和をつくるっていくのは私たちです」と発信した子どもたちのように、私自身も平和と命の尊さを発信していく。(J・F)